

H28.7/17~7/18

第2回

小児疾患の子供たちの勇気を膨らます会
キラキラキッズキャンプ
In 九十九里

訪問看護ステーションはーと
木戸 恵子





今年も7月17日・18日にきらきらキッズキャンプ in 九十九里が行った。

2回にわたる現地視察により、今回は海の近くの民家風コテージを拠点とすることにした。

患児はお家と同じような環境で過ごすことにより、病状の安定化をはかり、普段ではできない初めての体験を、家族と共に味わい、療養への希望を持つことを目的とした。

同胞は、家族旅行という体験を通して、日頃の心の葛藤を大掃除できるきっかけとなり、兄弟姉妹の「きずな」を深められることをねらいと考えた。

両親は特に母親は、家族単独では、実現できないことを、医療ボランティアや同じような環境にある仲間と過ごすことにより、自信が付き、子供の可能性を確認することにより、生活を共にしながら、想いを共有することで、療養における不安やストレスの軽減につながることを想定した。

当日はちょうど良い天気にも恵まれ、BBQをはじめとする団らんと、浜遊びにより参加者全員が想い想いの夏休みをのんびりと楽しく過ごすことが出来た。元気な子供たちはすぐに小さな社会を形成し、ありのままの子供らしさを発揮していた。

母親は夜更けまで医療スタッフとコミュニケーションし、お互いの気持ちをさらけ出すことにより、より深いチーム作りができたことを実感できたと思われる。

今回、重症難病を持つ患児たちがお出かけという初体験に至るにあたり、「覚悟&決心
それでも行きたい」のリスクを最小限にすることと、勇気を高めることに2年を費やした。その
迷いにひとつずつ、対応しながら患児の「どうしても行きたい」の気持ちを支えてきた。

私たちは一との目指すところはその人らしさと本人の気持ちの尊重。そして取り巻く家族の
心の安らぎ。そのために私たちは何が出来るかをいつも模索し、共に仲間と向き合い信じな
がら、看護を創造してきたいと考える。

ご協力いただいた往診医やボランティアに感謝したい。

訪問看護ステーションはーと

木戸 恵子